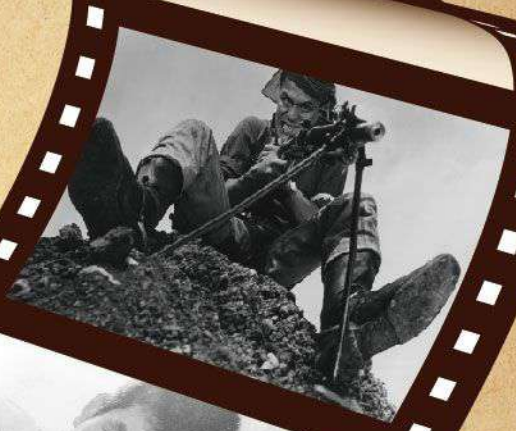
令和6年度　優秀映画鑑賞推進事業

35mm フィルムで味わう

名作映画鑑賞会



1980年代以降、日本映画の顔として
活躍してきた監督たちの意欲作を紹介。
全作品 35mmフィルム上映。

鈴木清順監督
けんかえれじい

鈴木清順監督
東京流れ者

岡本喜八監督
独立愚連隊

岡本喜八監督
日本のいちばん長い日

上映スケジュール	1/26(日)	1/27(月)
10:00～	独立愚連隊	東京流れ者
13:30～	日本のいちばん長い日	けんかえれじい

※開場は各回30分前

2025年
1月26日(日)・27日(月)

会場
可児市文化創造センター ala　映像シアター　KANI PUBLIC ARTS CENTER ala

料金 500円 全席指定

チケット発売日 2024年11月30日(土) 9:00 ※電話予約は翌日9:00から

主 催：(公財) 可児市文化芸術振興財団／アーラ映画祭実行委員会／国立映画アーカイブ

特別協力：文化庁／一般社団法人日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合連合会／株式会社KADOKAWA

NFAJ

アーラ映画祭

会場 可児市文化創造センターala　映像シアター ※開場は各回30分前

上映作品 戦中派の屈折を活劇に昇華させた岡本喜八と、独自の映像美学で世界中に熱狂的なファンを生んだ鈴木清順の作品を紹介。

1月26日 日

10:00～ 「独立愚連隊」

脚本・監督：岡本喜八　制作年：1959年　制作：東宝　時間：108分
出演：佐藤允、雪村いづみ、中丸忠雄、鶴田浩二、三船敏郎、夏木陽介ほか

成瀬巳喜男、マキノ雅弘らに師事した岡本喜八は、デビュー作『結婚のすべて』(1958)で斬新な娯楽映画の旗手として注目され、翌年『独立愚連隊』を世に送る。太平洋戦争末期の北支戦線を舞台に、独立愚連隊と称する前線の哨隊で命を絶った弟の死に不審を抱いた元軍曹が、従軍記者に扮して部隊に潜入、事件の背後に潜む上官の不正を暴きだす。シナリオ作家協会賞を受賞した自作の脚本をもとに、西部劇のエッセンスをパロディとして活かしながら、日本映画の伝統には見られない活劇調の戦争映画を作り上げた。終戦時に予備士官学校に籍を置いていた岡本の戦争に対する屈折した思いが、アクション映画の意匠から滲み出てくる。バタ臭い魅力を放つ佐藤允を主役に、中丸忠雄、中谷一郎、ミッキー・カーチスら個性派俳優、鶴田浩二や三船敏郎が各々ユニークな役どころを演じ、痛快な娯楽作を盛り立てている。本作のヒットにより、『独立愚連隊』はシリーズ化され、その後、岡本は大作『日本のいちばん長い日』(1967)を手がけることになる。

13:30～ 「日本のいちばん長い日」

監督：岡本喜八　制作年：1967年　制作：東宝　時間：157分
出演：三船敏郎、笠智衆、山村聰、松本幸四郎、宮口精二、戸浦六宏ほか

1945(昭和20)年8月14日正午、御前会議によるポツダム宣言受諾の決定から、翌日正午の天皇による玉音放送にいたるまでの1日を描き、「大宅壮一編」として出版された半藤一利のノンフィクションを原作に、東宝がその前身となる写真化学研究所(P.C.L.)のスタジオ建設から35周年を記念する作品として映画化。橋本忍の脚本を得て、岡本喜八監督が日本映画界を代表する男優陣総出演ともいえるキャストを、メリハリのある演出でさばき、日本映画史に1ページを画する大作に仕上げた。天皇による詔勅の文面が決定されるまでの前半は、陸相と海相とのやりとりに見られる緊迫した言葉のドラマを軸に展開され、後半は一転、終戦を阻止しようとする陸軍青年将校らによるクーデター計画を中心に、厚木航空隊、横浜警備隊の動きを絡ませながら、怒涛のようなテンポによる活劇が繰り広げられる。天皇が詔勅を録音するシーンと厚木基地での出撃場面のカットバックなど、戦中派である岡本のやるせない思いが細部にまでしみわたり、先の見えない国難に戸惑う者たちの心情が観る者の胸に迫ってくる。本作の成功により、東宝は以後6年間に亘り、「8.15シリーズ」と称した戦争映画を連作、岡本も1971年に再び大作『激動の昭和史 沖縄決戦』を手がけている。「キネマ旬報」ベストテン第3位。

1月27日 月

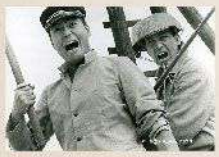
10:00～ 「東京流れ者」

監督：鈴木清順　制作年：1966年　制作：日活　時間：82分
出演：渡哲也、松原智恵子、川地民夫、二谷英明、郷鉄治、浜川智子、吉田毅ほか

やくざ稼業から足を洗って恋人と結婚する決意をしていた青年が、敵対するヤクザに狙われ各地を転々とするが、ついに堪忍袋の緒が切れる…。前年にレコード発売された「東京流れ者」の作詞を手がけた川内康範が、原作と脚本を担当した歌謡アクション映画。渡世の義理から離れようと旅に生きる主人公を渡哲也が演じ、粋で武骨な“不死鳥の哲”を魅力的に体現した。ドラマの流れよりもシーンごとの色使いや様式性に重きを置いた大胆な鈴木清順監督の演出と美学が遺憾なく発揮され、海外での人気も高い代表作の1本となった。

13:30～ 「けんかえれじい」

監督：鈴木清順　制作年：1966年　制作：日活　時間：86分
出演：高橋英樹、浅野順子、川津祐介、松尾嘉代、片岡光雄、野田圭介ほか



昭和初期、岡山から会津若松に移り住んだ暴れ者の硬派学生が、喧嘩に明け暮れながらも成長してゆく様を活写したおおらかな青春映画。若き高橋英樹が主人公を熱演しているが、爽快なアクションや乾いたユーモアの中に、ふと恋愛感情を覚えた主人公を通して豊かな叙情性が表現されている。山本直純による硬軟のメリハリが効いた音楽も、主人公の揺れ動く心理を的確に表していると言えるだろう。監督の鈴木清順は、日活時代に低予算、短い撮影期間による娯楽作品の量産体制、いわゆる「プログラム・ピクチャー」の中で独特のシャープな作風を完成させ、解雇後はフリーの脚本や俳優としても幅広く活躍した。ラストシーン近くに、やがて2・26事件で処刑される国家主義者北一輝が登場し、戦争に突き進む日本の姿を暗示しているが、原作にはなかったこの設定は鈴木監督が発案したものだという。

〈チケット取り扱い〉

可児市文化創造センターala　インフォメーション

Tel.0574-60-3050

9:00～19:00
火曜休館／祝日の場合は開館・翌平日休み

インターネット予約対象　webページ

〈お問い合わせ〉

可児市文化創造センター ala

〒509-0203　岐阜県可児市下恵土3433-139
URL　https://www.kpac.or.jp
TEL.0574-60-3311
9:00～22:30　火曜休館／祝日の場合は開館・翌平日休み